

上川管内 校長会	会 報	発行 上川管内校長会
		【事務局】旭川市6条通4丁目 上川教育研修センター3F TEL(0166)25-1350 FAX(0166)29-2115
		会長 南部和紀 編集 広報部
		令和4年度 第2号 (158号)



確かな情報共有を大切に

上川管内校長会副会長 鈴木伸行

(上富良野町立上富良野小学校)

会員の皆様におかれましては、日頃より上川管内校長会の活動推進に御尽力を賜り、心より感謝申し上げます。令和4年度も後半に入りましたが、新型コロナウイルス感染症は未だに収束が見通せず、感染症対策の徹底・継続は欠かすことができません。同時に、子どもたちの学びを止めることなく、子どもにとって1度しかない学年での学び・成長を支える教育活動にチーム学校で日々取り組まれていることと存じます。

さて、中教審答申では「令和の日本型学校教育」を目指し、実現すべき学校教育の姿が示されています。私たち校長には、子どもたちが、豊かな未来を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を身に付けることができるよう、未来を見据えた学校経営が求められています。また、学習指導要領の全面实施から小学校では3年目、中学校では2年目を迎えていることから、「主体的・対話的で深い学び」を視点に取り組む授業改善の成果(子どもの変容)を示す時期にきているようにも思います。

ところで、今年度の学校経営訪問「協議資料」の冒頭は「新しい時代における校長のリーダーシップの在り方」でした。どのように記載され

たでしょうか。学校管理職(特に校長)には、教育者としての資質や的確な判断力、決断力、交渉力、危機管理等のマネジメント能力が求められてきました。令和の日本型学校教育においては特に、様々なデータや学校が置かれた内外環境に関する情報について収集・整理・分析し共有すること(アセスメント)や、学校内外の関係者の相互作用により学校の教育力を最大化していくこと(ファシリテーション)が求められてきます。これからは、これらの資質・能力を基にしたリーダーシップの発揮が重要となります。

最後に、今年度8月には、「法制・教育経営研究会」「管内校長教育研究大会」をWebで、9月には、第65回北海道小学校長会教育研究旭川大会が、初めての会同・Web併用大会として開催されました。個人的な見解となりますが、Web会議は、全体会や講演などの場合、会場参加と遜色なく「自校で参加できる、旅費が発生しない」等、メリットが多々あると思います。ときに学校課題や校長としての悩み相談などは、会同ならではと感じています。情報収集・交流は、校長職には欠かせないものです。今後も、確かな情報共有を図り、会員の「結束」を強化する校長会であり続けるよう努めてまいります。



大谷翔平選手から学ぶこと

上川管内校長会事務局長 夔 田 佳奈恵

(剣淵町立剣淵中学校)

皆さんもよくご存じの大谷翔平選手は、8月に野球の神様ベーブ・ルースの1シーズン2桁勝利・2桁本塁打の記録を104年ぶりに塗り替えました。偉業を達成したにもかかわらず、試合後のインタビューでは、「単純に2つやっている人がいなかったというだけなので、それが当たり前になってくればもっと、もしかしたら普通の数字かもしれないし、それは単純にやっている人が少ないということかと思います。」と淡々と話していました。記録はただの通過点であり、二刀流の選手が少ないだけであるということなのでしょう。そんな大谷選手の姿から学ぶべき多くのことがあります。

その中の1つが、冷静さです。具体的には、ホームランを打ちベンチに戻ったときも、ピンチの場面で相手打者から三振を奪ったときも、ガッツポーズをすることはあっても、感情が大きく乱れる姿を見たことはありません。常に落ち着いているという印象です。

その冷静さは、校長に必要な資質・能力の一つだと私は思います。校長は、心の中で「どうしよう」「困ったな」という場面であっても、平静を装いつぶや指示を出したり、堂々と自分の考えを述べたりしなければならぬからです。また、冷静さは、社会人として、人との関わり方や気持ちの伝え方、課題に対応する力などとも関係します。

冷静さが身に付いているということは、怒りの感情をコントロールすることができ、毎日機

嫌よく笑顔で過ごせます。不機嫌な表情の人よりは、笑顔の人の方が、周りからは、「相談してみようかな」「話しかけてみようかな」という気持ちになります。そうすることで、良好な人間関係を築くことができます。

良好な人間関係が構築できれば、職場の雰囲気はよくなり、いざという場面で協働することができるはずで、さらには、感情に左右されなければ、気持ちや時間にゆとりができ、良いアイデアを思いつくこともあるでしょう。様々な面において、冷静さがとても大切だと思います。

暗いニュースが多い世の中、数少ない明るいニュースの1つである大谷選手の活躍は今後も続くことでしょう。大谷選手の冷静さを見習い、感情に左右されず、落ち着いて学校経営に取り組むとともに、これからも、学び続ける校長でありたいと思います。



新教育長のご紹介



名寄市教育委員会教育長

さし さよこ
岸 小夜子

- ・生年月日 昭和34年 1月14日
- ・出身地 紋別郡遠軽町
- ・就任年月日 令和 4年 7月 1日

- ・前 歴 昭和56年 北海道公立小中学校教職員（留萌管内・上川管内）
- 平成 9年 北海道教育庁空知教育局指導主事
- 平成13年 北海道教育庁石狩教育局指導主事
- 平成15年 北海道教育庁生涯学習部小中・特殊教育課指導主事
- 平成16年 北海道教育庁生涯学習部小中・特殊教育課主査
- 平成18年 北海道教育庁生涯学習部学校教育局義務教育課主査
- 平成19年 北海道教育庁学校教育局義務教育課主査
- 平成20年 北海道教育庁上川教育局生涯学習課長
- 平成22年 北海道教育庁学校教育局義務教育課主幹
- 平成24年 北海道教育庁釧路教育局次長
- 平成25年 北海道教育庁後志教育局義務教育指導監
- 平成27年 北海道教育庁学校教育局義務教育課長
- 平成28年 北海道教育庁学校教育局指導担当局長
- 平成30年 北海道教育庁学校教育局長
- 平成31年 学校法人旭川龍谷学園法人本部長・常務理事

・信 条 「我以外皆師」



美瑛町教育委員会教育長

すず き たか ひさ
鈴木 貴久

- ・生年月日 昭和35年 5月20日
- ・出身地 上川郡美瑛町
- ・就任年月日 令和 4年10月 1日
- ・前 歴 昭和55年 7月 美瑛町役場入庁
- 平成25年 4月 経済文化振興課参事
- 文化スポーツ推進室長
- 平成26年 4月 政策調整課長
- 平成28年 4月 総務課長
- 平成31年 4月 会計管理者
- 令和 3年 4月 特任参与

(一般財団法人 丘のまち
びえい活性化協会)

・信 条 「我事において後悔せず」



剣淵町教育委員会教育長

かな むら よし のり
金村 良則

- ・生年月日 昭和35年 8月14日
- ・出身地 上川郡和寒町
- ・就任年月日 令和 4年10月 6日
- ・前 歴 昭和59年 4月 剣淵町役場入庁
- 平成21年 4月 経済課長補佐兼
農林グループ長
- 平成22年 4月 士別地方消防事務組合
消防署剣淵支署次長
- 平成24年 4月 士別地方消防事務組合
消防署剣淵支署支署長
- 平成28年 4月 教育委員会高等学校事務長
- 平成29年 4月 教育委員会教育課長

・信 条 「継続は力なり」

会員の声

備えあれば憂いなし

中川町立中央小学校 小野茂樹

世の中で恐ろしいものと言えば「地震・雷・火事・親父」。8月11日未明の中川町付近を震源とする震度5強の地震は、なぜ地震が最初に掲げられるのかを実感させられるものでした。避難訓練では、地震想定で「机の下に身を隠して!」と指導していましたが、実際に揺れを感じると、人間、何もできなくなることを痛感。夏休み中であり児童の怪我も無く、学校の施設設備に大きな損傷が無かったことが不幸中の幸いでした。

線状降水帯で北海道・東北地方で大変な被害に遭われた方々のニュースを見るたびに「激甚化する自然災害」という言葉が真に迫ってきます。9月1日の防災の日に本校では1日防災学校を実施。段ボールベッドを製作する子どもたちの真剣な眼差しを見ながら、自ら進んで安心・安全な社会づくりに貢献する人に育つことを願い、「備えあれば憂いなし。」の言葉を改めて噛み締めています。

社会科副読本「しもかわ」の編集

下川町立下川小学校 井川健

令和5年度より使用する社会科副読本の編集作業をしています。中学校の社会科教諭や教育委員会生涯学習グループ職員にも1章ずつ作成の担当をしてもらいました。まちの人にインタビューをし、笑顔の写真を掲載させていただくことで、実際に学習する3年生・4年生がまちに親しみをもち、まち探検活動に意欲がもてるようにしました。また、総合的な学習の時間で学ぶ「下川とSDGsの関わり」や「下川町への提案」に繋げることができるように願いました。周辺地区で人と違った産業に取り組む姿や、まちに残したい森林環境教育の特集、地域特産のトマト生産農家の一年など、大人が見ても「へ～そうだったのか」と思うような仕掛けも入れていきます。この副読本で地域について学んだ子どもたちが、ふるさとに誇りをもち、ふるさとについて語る大人に成長するための一助になれば嬉しい限りです。

絵本の里から

剣淵町立剣淵小学校 鈴木貴之

剣淵町では「絵本」を町づくりの中核に据え様々な活動を行っています。町の施設である「絵本の館」は約4万冊という蔵書数を誇り、来館者が絶えません。その絵本の館で開催される絵本の里大賞事業では毎年全国各地から多くの応募があり、昨年度は私の大好きなヨシタケシンスケさんの「ねぐせのしくみ」が大賞を受賞しました。

本校もその恩恵を受けていて、絵本の館から派遣された図書館司書が図書室の管理や整備を進めてくれ、魅力溢れる図書室になっています。絵本の館と連携した定期的な本の入れ替えもあり、子どもたちにとってはいつも大好きな本に触れられる環境になっています。ボランティアによる読み聞かせ活動等も充実しており、子どもたちの読書に対する関心を更に高めています。今年から高校でも総合学科で絵本探究の授業が取り入れられ、絵本を通しての人材育成が進められています。

地域の力を大切に

士別市立糸魚小学校 宮 啓 智

士別市立糸魚小学校は士別市中心部から20kmほど東に位置し、天塩川源流に近い自然豊かな地区にあります。周辺5校と統合した経緯もあり校区は広く、最大6kmの距離からバス通学する児童を含め、28名全員が毎日元気に登校しています。

「きわめる子・やさしい子・きたえる子」の教育目標の下、本年度は「自ら考え、進んで取り組む」を合い言葉に、児童一人一人を大切にしたい授業改善、教育活動の推進に職員全員で努めているところです。

本校の特色の一つ「農業活動」では、地域の方々の御協力をいただき、土作りから収穫までの様々な取組を通して、「食」と「農業に関わる方々」への感謝の気持ちを深めるとともに、学年を超えた協働的な学びの場として成果を上げています。

朝日地区のもつ様々な地域の力＝教育環境の活用と創造に臨みたいと考える日々です。

大雪山の雄姿に心を癒されて

比布町立比布中央学校 三浦秀也

世界一大雪山が美しく見える町として名を馳せている比布町です。近すぎず遠すぎない程よい距離、裾野に豊かな田園風景が広がっているからでしょう。さて、本町の小中学校は今年度から義務教育学校としてリスタートしましたが、「義務教育学校はどうですか?」と質問が寄せられます。「いいですよ。」と答えています。義務教育9年間で子どもを育てる…、先生方が正に自分事としてとらえているからです。中学校へ送り出すわけでなく、小学校から受け入れるわけでもなく。中学校での学びにつなげるとか、小学生の時からしっかり関わるとか、そんな意識があります。子どもたちも具体的な目標を立てやすいと思います。校長会としては「一人校長会?」となり、周りの町の校長先生方に何かと助けていただいております。そろそろ、ウィズコロナからアフターコロナの学校運営を見通していかなければなりません。ぜひ、たくさん交流させてください。

山村留学校・ 特認校指定30年目を迎えて

東神楽町立志比内小学校 木末 携 志

志比内小学校は平成5年度より、山村留学校・特認校としての指定を受け、今年度でちょうど30年目となります。全校児童7名の小規模校で全ての子どもが東京や福島などから転入や移住してきています。地域の人や自然から学ぶ体験的な教育活動を推進しています。

今年度の重点目標を「自他の良さを認め合い、自分の考えや思いを表現できる子どもの育成」とし、子ども同士の認め合う関係づくりに力点をおき、相手意識をもち、自分の考えや思いを伝え合う活動の充実を目指しています。

新型コロナウイルス感染防止に努め、学校行事の実施方法や内容を工夫しながら、個々の児童に個別最適な学びや協働的な学びを保障できるよう教育活動を充実させていきます。

今後も小規模校の強みや特色を生かした教育実践に努め、東神楽町小中一貫教育の更なる推進に寄与できればと考えております。

地域とともに

美瑛町立美瑛小学校 堀内 隆 功

現在、美瑛町には、小学校5校と中学校2校、計7校の小・中学校があります。辞令交付式での資料「町内における小・中学校の歴史」によると、若干の入れ替わりがあるものの、過去には小学校が23校、中学校が11校あったことがわかります。

美瑛は「丘のまち」と言われますが、裏を返すと「沢のまち」でもあるということです。「まずはわが子に教育を」と、多くの沢伝いの集落での学校開設に尽力した先人の教育への熱い思いを想像するとともに、現在勤務する美瑛小がいくつもの学校との統合や閉校を経て現在に至っていることも改めて認識するところです。人口減少と少子化、その一方でグローバル化と情報化そして技術革新。どれも現在と将来に向け、地域と学校が共有すべき課題です。学校が「地域とともに」を目指すと同時に、地域が「学校とともに」あってもらえることを願いながら、地域に育つ子どもの視点で学校教育を推進していきたいと思っています。

大自然と人に癒やされて

占冠村立トمام学校 長岡 勇 樹

占冠村には、平成8年～平成14年まで一般教諭として占冠中央小、平成25年～平成27年まで教頭としてトمام小中学校、そして、今年度校長としてトمام学校と今回で3度目の赴任となりました。3回とも学校種、

役職が違い、いろいろな面で占冠村には良い経験をさせていただいていると感じます。また、「自然体感占冠」のとおり、占冠村は自然豊かな地です。学校でも自然にふれる体験活動を重視しています。また、ツアーガイド等に従事する方も多く、人とのふれあいを大切にした教育活動も進めています。

「すべては子どもたちのために」をモットーに、新型コロナウイルス感染対策をとりながら、保護者、地域そして教育委員会との連携を大切に、大自然と人とのふれあいに癒やされる学校づくりを目指したいと思えます。

自分からやってみよう

上富良野町立上富良野西小学校 駒井 崇

本校の歴史は創立54年とまだ新しく、6つの学校が統合してできた校区のとても広い学校です。校舎はとてもきれいで、前庭にはラベンダーが咲き誇り、校舎最上部に天文台が設置されているのが特徴的です。大きな望遠鏡で月を見ましたが、余りの迫力に驚かされました。このような環境の中、子どもたちは素直にすくすくと育っています。

今年度の重点目標は「主体的に行動する児童の育成」で、「自分からやってみよう」を合い言葉に様々な活動に取り組んでいます。姉妹校である三重県津市立安東小学校と3年ぶりに行った交流では、児童自ら計画した交流会を学年ごとに行い、安東小の子どもたちに楽しんでもらうことができました。今後も家庭・地域と連携しながら、全ての教育活動を通して主体的に行動する児童を育てていきたいと思えます。



校長会の活動



北海道で一番小さな村
音威子府村
音威子府村校長会

1 はじめに

音威子府村は、管内の北に位置し、北東は宗谷管内枝幸町、北は宗谷管内中頓別町、北西は中川町・南は美深町に隣接し、総面積の86パーセントが森林であり、そのほとんどは道有林と北海道大学研究林で占められています。北海道唯一の工芸科専科高等学校として誕生したおといねっぶ美術工芸高等学校があり、入学生は、北海道全域、道外からも多数の生徒が集まり寮生活のもと、恵まれた環境で、人間性・創造性を高める教育を実践しています。

そこで、音威子府村教育推進協議会を核として、幼小中高の連携を密にした教育を目指しています。

2 組織及び担当



高曽根教育長様とともに

会 長 岩谷 孝二 (音威子府小中学校)

副 会 長 池原 智宏

(おといねっぶ美術工芸高等学校)

3 主な活動

- (1) 定例校長会議 (月1回)
- (2) 各種研修会参加、後継者育成
- (3) 美深町・中川町との
合同学校経営研修会
- (4) 村行事への参加・協力



星・雪・きらめき
緑の里 なよろ
名寄市小中学校校長会

1 はじめに

北海道の北に位置する名寄市は、天塩川と名寄川が豊かな恵みをもたらし、もち米は日本一の作付面積、アスパラガスは北海道有数の作付面積・収穫量を誇る農業を基幹産業とする市です。

「コミュニケーションを深め、市の教育発展のために組織的に行動する校長会」を活動目標に、知・徳・体のバランスのとれた子どもと優れた教職員の育成を目指し、市民の負託と期待に応える学校経営に市内11校が一丸となり取り組んでいます。

2 組織及び担当



岸教育長様とともに

会 長 鈴木 豊 (名寄南小学校)

副 会 長 櫻庭 一也 (名寄東中学校)

妹尾 洋美 (名寄中学校)

事務局長 小林 勝彦 (名寄西小学校)

3 主な活動

- (1) 定例校長会議
- (2) 教育改善プロジェクトの推進
- (3) 教育関係機関との連携及び諸課題への対応
- (4) 後継者育成
- (5) 会員相互の研修推進と親睦促進

すてきな笑顔と花のまち

ひがしかぐら

東神楽町校長会



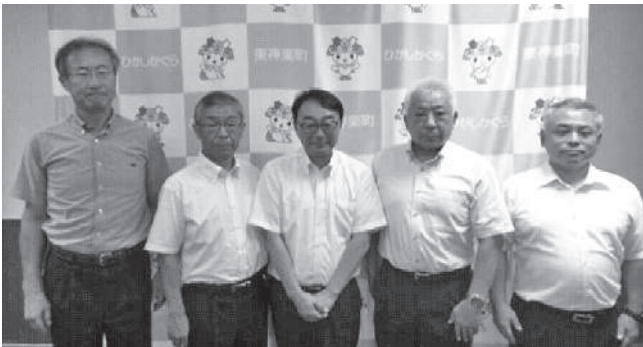
1 はじめに

東神楽町は、『未来を拓く 心豊かな人を育むまちづくり』を教育の基本目標に掲げ、質の高い東神楽スタイルの教育実践に努めています。

学校教育においては、「東神楽町小中一貫教育イノベーションプログラム」を推進し、併設型の小中一貫教育の充実に努め、町内の小中学校が一体となった教育活動を推進しています。

さらに、ICT機器の利活用を積極的に進め、児童生徒1人1台端末の有効活用による子どもたちの個別最適な学び・協働的な学びを充実させ、個々の資質・能力を育むため、情報モラルを含む情報活用能力の育成を目指しています。また、学びの質を高める授業改善を軸に、学園制加配による教科担任制の指導や、タブレットドリルなどの導入を行っています。

2 組織及び担当



金谷教育長様とともに

会 長 堀江 充 (東神楽小学校)

事務局長 木末 携志 (志比内小学校)

3 主な活動

- (1) 教育委員会主催の校長会議 (月1回)
- (2) 校長会主催の協議、連絡、研修
- (3) 各種研修会への参加
- (4) 後継者育成研修 (つつじ会)
- (5) 親睦行事・町行事への参加

美瑛町校長会

丘のまち



1 はじめに

自然豊かな「丘のまちびえい」には7つの小中学校があります。7校が集まって「美瑛町教育推進協議会」を組織し、今年度は重点課題を「ふるさと学習の充実」「外国語教育の推進」「情報教育の推進」として取組を進めています。

美瑛町校長会では、美瑛の未来を担う子どもたちの育成のため、尽力しています。

2 組織及び担当



鈴木教育長様とともに

会 長 堀内 隆功 (美瑛小学校)

副 会 長 岸田 賢治 (美馬牛小学校)

事務局長 倉橋 昭彦 (美瑛東小学校)

経営研修 温泉 敏 (美沢小学校)

大柄 洋樹 (美馬牛中学校)

広報厚生 金山 達也 (美瑛中学校)

会 計 相馬美智枝 (明德小学校)

3 主な活動

- (1) 定例校長会議 (月1回)
- (2) 学校経営ミニ研修
- (3) 各種研修会参加
- (4) 後継者育成
- (5) 親睦行事
- (6) 町行事への参加





1 はじめに

上富良野町は、令和4年1月に日本ジオパーク委員会による審議の結果、「十勝岳ジオパーク」に認定されました。自然に囲まれた魅力を発信し、活気に満ちた町づくりに取り組んでいます。また、養豚が盛んで、おいしい豚サガリは町の名物になっています。

我々校長会は、町の教育行政執行方針「ふるさとに学び 人が輝き 人がつながる かみふらのの教育」の実現を目指し、微力ながらチームワークを活かし全力で取り組んでいます。

2 組織及び担当

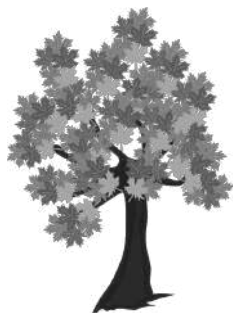


鈴木教育長様とともに

- 会 長 鈴木 伸行 (上富良野小学校)
- 副 会 長 富永 浩司 (上富良野中学校)
- 会計研修 駒井 崇 (上富良野西小学校)
- 事務局長 澤田 克之 (東中小学校)

3 主な活動

- (1) 定例校長会 (月1回)
- (2) 研修活動 後継者育成研修
- (3) 親睦行事
- (4) 町行事への参加・協力



1 はじめに

占冠村は、上川管内の最南端に位置し、日高山脈と夕張山地に囲まれた盆地で、総面積は約571平方キロメートル(東京23区とほぼ同じ大きさ)、その94%は山林で占められています。

キャッチフレーズは、「自然体感占冠」。占冠村での生活が森林浴そのもの。雄大な森林が育む植物・動物・新鮮な空気、四季の移ろいを感じられるゆったりとした自然環境に恵まれています。

そのような中、村内3校の総称「占冠学園」校長会は、教育委員会の御指導をいただきながら、ふるさとを愛する子どもたちの健全育成のため、連携・協力を深めています。

2 組織及び担当



多田教育長様とともに

- 会 長 井上 隆一 (占冠中央小学校) 評議員
- 副 会 長 長岡 勇樹 (トマム学校) 研 修
- 事務局長 山口 康一 (占冠中学校) 会 計

3 主な活動

- (1) 定例占冠学園会議 (月1回 TV会議システム)
- (2) 研修活動
- (3) 親睦行事
- (4) 村行事の参加と協力

